

英語による教育の方法とその効果

研修・報告者：申琪榮（シン・キヨン）

所属：大学院人間文化創成科学研究科 人間科学系 ジェンダー社会科学専攻

期間：22年 7月 28日～ 22年 8月 18日（22日）

派遣先：梨花女子大学（韓国 ソウル市）

受け入れ先：梨花女子大学『アジア女性学センター』

研修目的

本研修の目的は、本学との協定校であり、いち早く国際化を進めてきた韓国ソウル市の梨花女子大学を訪問し、当該大学が夏期休み中に実施している二つの教育プログラムについて調査を行うことであった。調査対象のプログラムは **International Co-ed Summer School (2nd Session)** と **International Studies Program** であり、いずれも全課程を完全に英語で行っている。また、両プログラムは女子大という制限を超え、男女共学のプログラムとして運営している。**International Studies Program** はその対象を高校生に広げている特徴もある。

本研修は、それらプログラムの実施状況や効果を調査することによって、本学でも検討を始めている英語による教育プログラムの可能性やその具体的な方法を模索するに参考事例を提供することを目的とした。

研修方法

International Co-ed Summer School の場合は、派遣期間中に第二セッション（8月4日～8月17日）が行われたため、直接授業を参観させてもらった。また、このプログラム運営担当者へのインタビューを実施し、派遣期間中にはすでに終了していた第一セッション（6月23日～7月20日）をも含めたプログラム全体の内容や運営状況について具体的な状況を伺った。参考としてプログラム紹介用のパンフレットも入手した。

International Studies Program については、派遣期間中に参与観察は実施できなかったが、プログラム運営担当者にインタビューを行うことで実施状況について情報がえられた。また、授業を担当した梨花女子大学の教員にもインタビューを行った。

以下、各プログラムについて調査内容を具体的に報告する。

International Studies Program (ISP)

概要

International Studies Program は、2001 年から当該大学の国際学部（スクレントン大学内）主催で、国際学に関心をもつ全国の高校生を対象に短期授業を提供するプログラムである。授業は全課程において英語で行われるので韓国人・外国人を問わず参加することが可能である。

プログラム実施最初は、年 2 回、夏／冬休みに実施し、主な対象は国際学部に進学することを希望する高校生である。初期の関心度は高く、毎回大体 30 名程度の履修者があった。

仕組み

具体的な内容としては、国際学を内容とする 4 科目（例えば **Multiculturalism** など）を 2 週間半に渡って受講し、計 72 時間を受講する集中講義形式である。受講生は午前 3 時間（1 科目）、午後 3 時間（1 科目）に分けて 1 日 6 時間 2 科目の授業に出る。授業の内容によってはフィールドトリップなどに出かけることもある。授業はほとんどの場合、スクレントン大学の国際学部またはスクレントン学部（リベラルアーツ学部）の教員により行われる。担当教員には **incentive** として一科目に 300 万ウォン（23 万円程度）が支給されるそうだ。

募集と受講料

受講生の募集は、全国の高校を対象に新聞広告、案内文発送、HP を通じて行っている。選抜は書類審査と英語面接を行う。受講料は 178 万ウォン（14 万円程度）、さらに、地方から来る学生は寮に宿泊することが可能だが、別途 20 万ウォン（1 万 5 千円）ほどの宿泊費を収める必要がある。履修後は **Certificate** をもらえるが、受講生が梨花女子大学に進学しても単位として認めることはない。

現在の課題

10 年間実施した現在は、受講生の資格を高校生から大学生や院生にまで広げている。その主な理由として国際学に触れるチャンスが多くなったことにつれ、段々高校生の受講生は減ってきたことがある。また、受験勉強に忙しい高校生にとって、時間を取って履修しても直接大学進学に有利になるわけではないからであろう。近年は夏休みのみ実施しているが、今年（2010 年）は受講生が 9 名に落ち込んだため、このプログラムを今後も継続すべきなのかについてさらなる検討が行われるようである。

おそらく高校生を対象とする国際学プログラムは、大学としての社会的貢献、また、大学の国際化水準のアピールとして大きい意味があるろうが、進学と無関係な制度で純粹に受講生の関心のみで実施される制度は、高校生の履修者の衰退に導かれると思われる。

International Co-ed Summer School

概要

International Co-ed Summer School は、夏期休みに韓国を訪問する海外の大学生を対象に時期別に二つセッションにわけて実施する単位交換プログラムである。本プログラムは韓国でもっとも長い40年の歴史を持つ国際サマースクールと言われている。近年までは4週間（6月末から4週間）の集中講義形式の第一セッションのみを実施してきたが、最近韓国の文化に関心を持つ海外の学生が増加した現状を踏まえ、より短期（8月の2週間）の第二セッションを新たに設けることになった。そのような背景から両セッションは受講対象やプログラムの性格が若干異なっている。

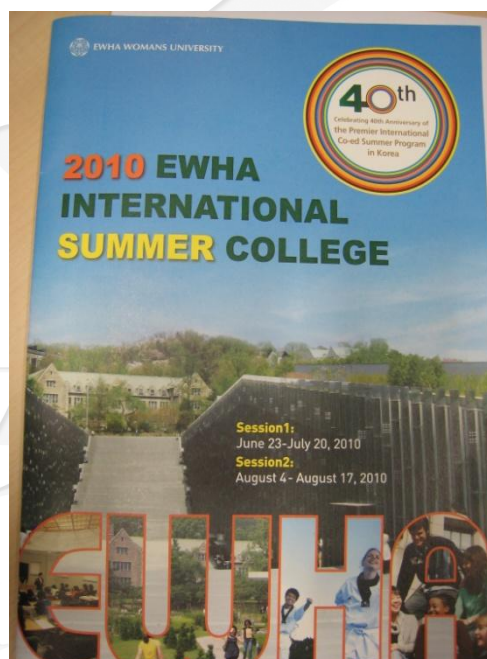
第一セッションの内容

（6月23日～7月20日）

このセッションは韓国社会や文化に関心を持つ海外の男女大学生を対象に、単位交換が可能なサマースクールである。提供科目は4つのカテゴリ（Liberal Arts, Music Art & Design, Social Sciences, Business&Economy）で計20カ科目である。

ACADEMICS		
● Timetable		
Track	Monday	Tuesday
AM		09:00-11:30
PM Track1		12:30-15:00
PM Track2		12:30-17:00 (Korean Lang class only)
Field Trips Cultural Excursions		
Note: You would be able to take either Afternoon Track 1 OR 2.		
● Courses		
You can choose 2 courses from the 3 Categories below to earn 4 credits. Although most institutions fully transfer credits earned, please double-check with your international program officer before applying.		
Category I. Academic Courses taught in English		
No.	Category	Subject
1		Introduction to Premodern History of Korea
2		Modern Korean History
3		Korean Art History
4	Liberal Arts	Topics on Korean Literature
5		East Asian History
6		Popular Culture and Life in Contemporary Korea
7		New World History, Global History, and Big History
8		Traditional Korean Music [Studio-type]
9	Music, Art & Design	Traditional Korean Painting [Studio-type]
10		Korean Ceramics [Studio-type]
11		Gender Relations in Korea
12		Contemporary Korean Cinema
13	Social Sciences	Korean Politics
14		Introduction to Sociology
15		Introduction to Korean Media and Culture
16		Introduction to Political Economy
17		Introduction to Korean Economy
18	Business & Economy	Management Accounting
19		Financial Management
20		Principles of Economics
Note: The above courses are subject to change.		

カテゴリと科目一覧



ブックレット

学生は2つの科目を選択し6単位を取得する。午前2時間30分の1科目を受講するが、午後はさらに1科目を取るか、または韓国語を学ぶ。月曜日から木曜日は以上のような授業を行うが、金曜日と土曜日は韓国社会やその文化が体験できる Field Trip に出かける。フィールドトリップの場所として民俗村、DMZ (Demilitarized Zone), B-Boy 公演観覧、吐露フェスティバル、放送局などが含まれている。

受講生の特徴

今年は190名の学生が受講したという。その中、アメリカからの学生が大体50%、ヨーロッパが30%ほどで、海外韓国人は40%がいた。男女比率は男性大学生が2~3割ほどといわれた。第一セッションは大体の場合、すでに梨花女子大学と協定を結んでいる海外の大学(700校にのぼる)の学生が単位交換制度を利用して参加している。四〇年の歴史があったため、中ではご両親が学生の時代に同プログラムに参加したケースもあった。学生の関心はリベラルアーツ科目や韓国文学に大いにあるという。

講師やサポート体制

第一セッション講師の場合、梨花女子大学の教員が3割ほどを示し、7割は非常勤講師である。すべて英語で行われるため、海外から若手の講師を招聘するが多い。毎年15~18名ほどの講師が海外から参加する。講師には旅費と宿泊費、相当の講師料を支給する。

プログラムの実施主体は国際交流チームである。この事業のためのインターン1名を採用し、手伝ってもらっている。梨花の国際交流チームは英語力を持った職員でこのプログラム以外にも年間約300名の交換留学生をサポートしている。特に

International Co-ed Summer School のための外部資金を獲得してはいない。

受講生の学生は全員大学院生用の寮で過ごす。学費は230万ウォン(18万円)

第二セッションの内容

(8月4日~8月17日)

第二セッションは二つの理由によって、新たに設けられた。一つはより短期間で韓国の文化を体験したいとの希望に叶えるためである。このプログラムは最近の韓流ブームから生じる日本を中心とするアジアの学生の関心に合わせたものという。従って、単位取得より、文化体験にもっと重点を置いたプログラムとして構成している。

もう一つの理由は、特に日本の大学のスケジュールが諸外国と異なる点を考慮したためである。ちなみに、日本の大学7月末まで授業が続くため、日本の大学生が第一セッションには間に合えなくなる問題を解消するためである。また、第二セッションは英語が得意ではない学生であっても十分に授業に出ることができるような内容としている特徴も持つ。

今年はアジアからの学生を中心に約90名の学生が参加し、かつ日本人の学生が半数以上を占めた。協定校であるため、本学からの参加者もいた。

プログラムの特徴

プログラムの構成は第一セッションとは違って、授業の選択はなく決まったプログラムに全員が参加するような形式を取っている。終了後は3単位を取得する。以下の写真はプログラムの内容である。

1 Timetable

	August 1 st Sunday	August 2 nd Monday	August 3 rd Tuesday	August 4 th Wednesday	August 5 th Thursday	August 6 th Friday	August 7 th Saturday
A M			Official dormitory check-in date	- Welcome Ceremony & Orientation - Welcome Luncheon with Ewha Students	Lecture: Korean Ceramics (studio-type)	Orientation Trip (Special Cultural Excursion Trip): 1 night and 2 days at Jeonju City	
P M				- Korean Placement Test - Campus Tour	Intensive Korean Language Class (14:00 - 17:00)		
	August 8 th Sunday	August 9 th Monday	August 10 th Tuesday	August 11 th Wednesday	August 12 th Thursday	August 13 th Friday	August 14 th Saturday
A M	Free Day	Lecture: Introduction to Korean History	Lecture: Traditional Korean Music (studio-type)	Lecture: Korean Family and Society	Field Trip: Visit to Major Broadcasting Company (MBC)	Lecture: Contemporary Korean Cinema	Field Trip: 'B-Boy' Performance
P M			Intensive Korean Language Class (14:00 - 17:00)				
	August 15 th Sunday	August 16 th Monday	August 17 th Tuesday	August 18 th Wednesday	August 19 th Thursday	August 20 th Friday	August 21 st Saturday
A M	Free Day	Field Trip: Gyeongbok Palace	Farewell Ceremony	Official dormitory check-out date			
P M					Intensive Korean Language Class (14:00 - 17:00)		

Note : The above schedule is subject to change

プログラムでは大きく次の4つの内容で構成される。

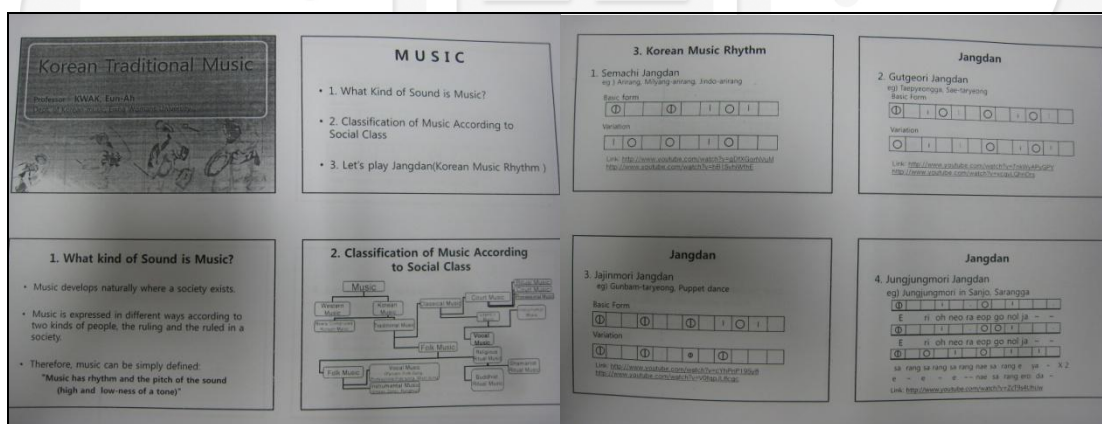
1. 韓国語の集中講義：平日の午後は毎日韓国語の授業が行われる。
2. スペシャルレクチャー：英語で行うが、テーマは韓国の映画、歴史、音楽、韓国家族や文化、美術などで参加型授業として行われる。
3. フィールドトリップ：韓国の文化が理解できる歴史的な場所や現代文化が体験できる放送局、各種公演などを訪問する。
4. Orientation Trip：週末に1日2日間全州市を訪れ、伝統アートや生活文化を体験する。

スペシャルレクチャーは参加型授業として行われ、学生からの関心が高い。以下の写真は韓国の音楽をテーマとした授業の風景を写ったものである。講師（梨花女子大学の音楽学部教授）の説明に従って学生たちが実際に伝統楽器（チャング）を使ってリズムを演奏する体験をしている。

スペシャルレクチャーの風景



授業中に配られたレジュメ



第二セッションの学費は130万ウォン（約10万円）で、第一セッションの受講生と同じく全員寮に宿泊することが可能である。

考察

梨花女子大学は早くから国際化に力を注ぎ、その一環として夏期休みの International Summer School にも熱心に取り組んできた。対象を国際的に広げるために、英語で授業を行う環境を備えることや、他大学との競争で勝ち抜くために、梨花特有の教育環境を作ることにも気を遣っているように思われる。例えば、韓国で競争相手

になる有名共学私立大学が実施しているサマースクールと比べ、梨花女子大学は、より小規模のクラスで、授業の内容が充実し、大学が細かく学生の面倒をみるようなスタイルを打ち出している。そのようなスタイルは受講生の中で評判が高いそうだ。

また、男性学生にも働きかけるなど、**International Studies Program** の試みで分かるように形式や対象をより広げるために様々な試みをしているのも印象深い。参加者はアメリカ、ヨーロッパ、アジアの学生と、すでに海外に留学している韓国人の学生も夏休みに韓国に戻ってサマースクールに参加するなど、受講生の範囲が広い。

もう一点指摘すべきなのは、大学のインフラの充実である。国際交流チームは11名の規模で世界各地の700校にのぼる締結校と交流をサポートしている。私の受け入れも国際交流チームが担当してくれた。

サマースクールにさらに授業を担当する教員に対しても十分な報酬を保障しているのも目立つ点であった。